

● 教室(診療科)の特色 ●

当科は、高槻市・茨木市・摂津市・長岡京市・枚方市・吹田市およびその近隣地区の歯科口腔外科治療の中核を担う診療科です。周辺歯科医師会との密接な連携のもとに、口腔内に発症するあらゆる病変の専門的治療を行っています。また、がん治療患者さんの口腔ケアなどを通じた医科歯科連携医療にも力を注ぎ、当科を受診される患者さんに高度で安全・安心な医療の提供に全力を注いでいます。



植野 高章(うへの たかあき)教授(科長)

■ 専門分野

口腔外科手術、顎骨欠損症例への骨移植術とインプラント外科治療

■ 職歴

平成 5年 7月 岡山大学歯学部助手

平成21年 2月 福井大学医学部准教授

岡山大学歯学部非常勤講師

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部客員教授

平成23年 9月 大阪医科大学教授

■ 主な学会／専門医資格

(社)日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔インプラント学会専門医・指導医、
日本がん治療認定医機構教育医(口腔外科)、日本顎顔面インプラント学会指導医、
日本口腔ケア学会

■ 研究課題

成長因子を応用した骨の再生医療とその組織学的評価法開発、咬合機能の回復と全身状態の評価、
悪性腫瘍治療患者の口腔衛生管理に関する研究

● 診療科の概要・特徴 ●

当科で専門的に扱う治療は、顎骨や口腔粘膜に発生する腫瘍、顎骨外傷、嚢胞性疾患、口腔粘膜疾患、顎関節疾患、顎炎、顎変形症、睡眠時無呼吸症および全身疾患を有する患者さんの口腔外科治療です。耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科と連携し、外傷や腫瘍で顎を喪失した患者さんの顎骨再建や歯科インプラントによる咀嚼機能再建にも積極的に取り組んでいます。また、がん治療中の患者さんや、心臓血管外科手術を受ける患者さんの専門的口腔ケアを行い、術後誤嚥性肺炎予防や抗がん剤による口腔粘膜炎の重症化予防に効果をあげています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題
寺井陽彦(専門教授)	(社)日本口腔外科学会専門医・指導医	難治性口腔疾患におけるカンジダの関与
木村吉宏(講師(准))	(社)日本口腔外科学会専門医	顎炎の発症機序
中島世市郎(助教)	(社)日本口腔外科学会専門医	睡眠時無呼吸 顎変形症
他助教1名		

- 連絡先：大阪医科大学口腔外科学教室 TEL:072-683-1221
- ホームページ：http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ora/

初期臨床研修プログラムの特徴

大阪医科大学附属病院における歯科医師国家試験合格後の初期臨床研修の目的は、研修プログラムに基づいて、関連領域の基礎的知識と医療技術および歯科医師としての態度を習得することにあります。

この初期臨床研修プログラムは総合的な歯科医学研修を実践できることに特徴があります。

研修内容と到達プログラム

<1年目>

研修内容

- 医療面接
- 歯科診療計画立案
- 外来患者の基本的診断
- 口腔外科疾患の理解
- 口腔外科治療時の偶発症
- 全身疾患と口腔衛生との関係
- 多職種医療連携

到達目標

- 問診などの医療面接が適切に行える
 - 歯科診療計画立案が適切に行える
 - 外来患者の基本的診断が行える
 - 基礎的な口腔外科疾患の診断・治療が行える
 - 口腔外科治療時の偶発症に対応できる
 - 全身疾患と口腔衛生との関係を理解・実践できる
 - 多職種医療連携を理解・実践できる
- ⇒上記をもとに医師としての礼節・総合的な歯科治療能力を習得する

学術活動

- 教室内での専門分野の抄読会
- 学術大会への参加・発表
- 症例についての論文作成

研修病院群

研修は単独型であるので研修病院への派遣はないが、2年目に関連病院での研修を行う場合がある。

関連病院

市立ひらかた病院／北おおさか警察病院／藍野病院／藍野花園病院／公立学校共済中国中央病院

評価方法

指導医は定期的に研修内容を評価し、その評価に基づいて研修医の指導を行う。研修の前半と終了時に、研修医の到達進捗程度を、経験症例数や報告書などを判断材料として、評価を行い、研修管理委員会により最終評価を行う。



口腔外科手術室

週間スケジュール

月曜日	外来診療 病棟処置
火曜日	外来診療(一般歯科)、中央手術 入院カンファレンス
水曜日	外来診療、外来手術 病棟回診
木曜日	外来診療、外来手術 病棟処置
金曜日	外来診療、中央手術 病棟処置
土曜日 (第1、3、5週)	外来診療 病棟処置

後期研修プログラムの特徴

国が定めた歯科における研修期間は1年間です。しかし、大阪医科大学の歯科研修プログラムでは、臨床手技の習得に重点化した専門的な歯科口腔外科後期研修プログラムを組んでいます。

より高度で、専門的な疾患の診断・治療を担当し、その中からより深い知識と臨床能力を身につけ、大学院などへの研究分野に進んでいくことも可能です。

研修プログラム

プログラム責任者: 植野 高章

<2年目>

研修内容

2年目は麻酔科(6か月間)、場合により他の隣接科での研修を行う。

<3年目～5年目における研修方法>

研修内容と到達目標

外来ならびに病棟において主治医となり、積極的に臨床に携わる。特に(社)日本口腔外科学会専門医取得を目標として研修を行う。

プログラムに参加する医療機関等

大阪医科大学附属病院 歯科口腔外科

取得できる認定医・専門医

(社)日本口腔外科学会専門医

日本顎関節学会専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)

日本口腔インプラント学会専門医

日本顎顔面インプラント学会専門医

日本口腔科学会認定医

参加学会等

日本口腔外科学会/日本口腔科学会/日本口腔インプラント学会

日本口腔腫瘍学会/日本口腔粘膜学会/日本口腔ケア学会

日本顎顔面インプラント学会/日本小児口腔外科学会

口腔診断学会/日本顎関節学会/日本咀嚼学会

The Hard Tissue Biology Network Association
International Association of Oral and Maxillofacial Surgery (IAOMS)

European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery

International Congress on Neutron Capture Therapy (ICNCT)

Academy of Osseointegration

主なる関連病院

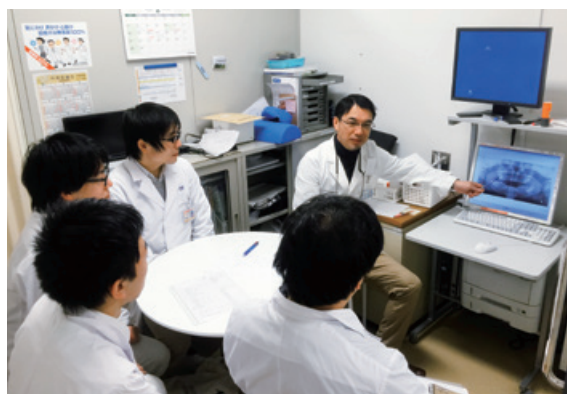
市立ひらかた病院/北大阪警察病院/藍野病院/藍野花園病院

公立学校共済組合中国中央病院/北出病院

枚方市口腔保健支援センター



口腔外科学会スーチャーコンテスト



クリニカルクラークシップ



医局会

大学院における研究活動

口腔疾患全般にわたって、医師、歯科医師として必要な幅広い理論と経験を身につけるとともに、それらを裏付けるための臨床的ならびに基礎的研究を行います。臨床研究においては、歯科口腔外科先進医療の開発を目指します。基礎研究においては臨床における問題点を解明するための最新の研究を行います。高度化する医学へ対応するため、他大学および他研究施設と積極的に交流しています。

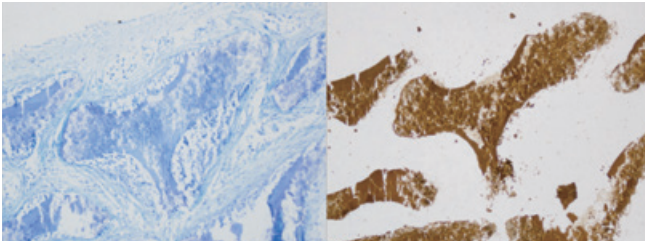
現在の研究テーマとその概要並びに展望

①口腔ケア・歯周病と全身疾患の関連に関する研究

近年、糖尿病や誤嚥性肺炎などの全身疾患との関連からう蝕や歯周病などの歯性感染症のコントロールを中心とした口腔ケアの重要性が広く認識されるようになった。当科のような医科大学附属医院においてはがんを扱う院内各科や心臓血管外科から口腔ケアの依頼が急増しつつある。しかし、一般的な口腔ケアの重要性は認識されているものの、疾患ごとのあるいは科別の口腔ケアの意義についてのエビデンスは未だ不十分である。頭頸部外科における口腔ケアの意義や心臓血管外科における口腔ケアの意義など、症例を蓄積し分析している。また、歯周病とリウマチの関連についても内分泌内科と共同研究を開始している。

②骨補填材を用いた硬組織再生の研究

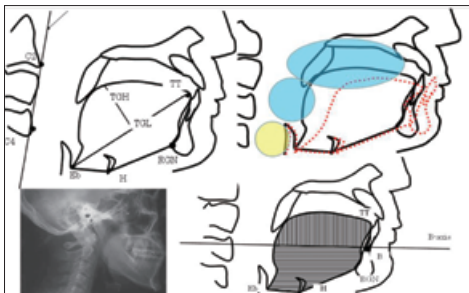
歯槽堤骨欠損部位への歯科インプラント手術に際して、不足した骨量を回復するために骨増成手術が行われる。骨増成手術の際に使用される骨補填材の骨形成過程は未だ不明な点が多い。有効性を科学的に検証し、臨床における歯槽骨再生を効率的に行うための研究を行っている。



ラット骨欠損部の骨補填材の組織像(左: トリイジンブルー、右: von Kossa染色)

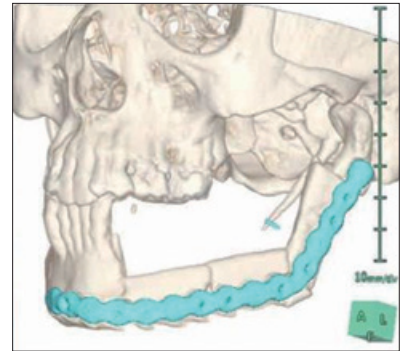
③睡眠時無呼吸症候群に関する研究

閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の歯科的なアプローチを行った研究を行っている。これまで、画像分析によるOSAS患者の顎骨形態や口腔装置が顎骨形態や気道、舌に与える影響に関し研究を行ってきた。これら研究成果であるOSASの治療法については、積極的に公開し、地域医療の進展を図るなど社会的貢献も行っている。今後は顎変形症や頭頸部腫瘍など、頭頸部領域の術後における顎顔面の形態変化が気道へ及ぼす影響について検討し、OSASにおける歯科的アプローチを行う予定である。



④顎骨再建に関する研究

近年、治療技術の進歩や専門領域の深化が進み、頭頸部腫瘍手術は耳鼻咽喉科や形成外科、歯科口腔外科など、各専門科が横断的に連携したチーム医療が求められている。当教室では顎骨再建における咬合・咀嚼機能の維持と回復を担当し、画像解析や3Dプリンターを用いた手術シミュレーションや手術支援装置の研究・開発を行っている。今後はこれら顎骨再建後の機能評価法の開発やオーダーメイド再建用プレートや人工チタン骨の開発を目指した研究を行う予定である。



⑤濃厚血小板血漿(Plate-Rich plasma: PRP)の臨床基礎研究

濃厚血小板血漿(Plate-Rich plasma: PRP)をインプラント手術時の骨造成や埋伏智歯の抜歯後の治癒促進に臨床応用している。骨の再生や創傷治癒に有用であることは解っているがPRPに含まれるVEGF、TGF- β 、PDGF等の成長因子の濃度については不明な点が多い。PRPに含まれる成長因子について濃度の経時的変化などの臨床に直結した研究を行っている。

⑥骨欠損再生医療分野では、骨修復の方法として組織再生誘導法(GBR法)が目目されている。しかし広範囲な骨欠損や複雑な形態の骨欠損には応用が困難とされてきた。われわれは自由な三次元形態をもつチタン表面に様々な処理を施し、広範囲で複雑な形態の骨欠損を再生する新規骨再生マテリアルの開発を目指し、次世代型骨再生法の研究を、中部大学、九州大学、大阪冶金興業と行っている。

